



「障害者・患者9条の会」 二〇〇八年総会を前に 世界から戦争をなくしていくために

〜世界の宝、憲法9条を実現させる取り組みを〜

母がいつも言っていたこと

「本当に、戦争は悲惨なものなんだよ。私は東京大空襲で焼け出され、親きょうだいが散り散りとなって、住むところもなくなってしまうんだから……。小さいおにぎりを二つだけ持たされ、川崎のお姉さんの家に行くんだよ」と親に言われ、それを大事に大事に持って、二日ばかりで必死の思いで川崎のお姉さんの家にたどり着いたんだよ。たどり着いてお姉さんに会えたときは、もう

涙が止まらなくて……」という話を、母は私が小さい頃から繰り返し聞かせてくれました。また、敗戦の直前には食べ物ほとんどなくなり、透き通ったおかげで何とかしのいだ、という話も口癖でした。さらに、女学校からの帰り道、米軍機に追われ、機関銃を発射され、何とか逃げる事ができた、という話もよくしてくれました。

向に向かわせてしまうことは、今さら言うまでもありません。

戦争の教訓から憲法9条は生まれた

そんな戦争の教訓に学び、日本は戦争放棄と非武装を明文化した日本国憲法を誕生させました。南京大虐殺や、沖繩戦、広島・長崎への原爆投下、東京大空襲をはじめとして、第二次世界大戦は多くの普通の市民を殺した戦争でした。

日本は、戦後、平和憲法は持ったものの、自衛隊という軍隊を創設さ

せ、日米同盟という傘にすっぽりと入り込んでしまいました。朝鮮戦争、ベトナム戦争、そしてイラク戦争などを通し、自民党など保守陣営は、隙あらば平和憲法を改悪させ、姑息な方法をとらなくても、軍隊として正々堂々と海外に派兵できるようにし、アメリカと共同行動をもっととれるようにしたい、と企んできました。

平和憲法の危機に対して

二〇〇一年のニューヨークでの同時テロを境に、日本人の意識も「軍隊は必要なのではないか」というものに大きく変わってしまい、憲法9条は危機に瀕している状態です。

「九条の会」をはじめ、各界の人たちが、平和憲法を守る運動を展開し、社会的に最も切り捨ててしまわれやすい障害者・患者として「障害者・患者9条の会」を二〇〇五年に結成しました。幅広い立場からの方

たちによびかけ人になっていただき、平和を、憲法9条を真に実現してこそ、本当の意味での福祉社会がつくっていく、という思いを共有することができました。

第一回の結成のつどいは二〇〇五年の九月一〇日、東京・池袋で開催しました。その後、障害者の関係では、「障害者自立支援法」という反動的な法律と政策に追いまくられてしまい、活動は十分に進展できていない部分もありますが、昨年、安倍政権が国民投票法を強引に通したときには、声明を相次いで二つ出し、抗議の意を示していききました。集会はその後、毎年、秋に持たれ、現在、「障害者・患者9条の会」の賛同者は七〇〇名を超えています。

今年九月六日（土）、ハンセン病療養施設である多磨全生園で行います。そしてハンセン病問題を、人権・福祉という切り口でもとらえ返し、本当の意味で9条を実現させる

にはどういうことが必要なのかについて考えていく機会としたいと思っています。今年、ハンセン病問題基本法が制定されましたが、シンポジストには多磨全生園元自治会長の平沢保治さんをお願いし、これまで人権が無視され続けてきた実体験と、平和のあり方から改めて語っていただく予定です。

また、日本原水爆被団協事務局次長の岩佐幹三さんにもシンポジストをお願いし、核兵器廃絶と国家賠償問題について話していただきます。

今もなお、世界の至るところで戦争が起きていますが、憲法9条をさまざまな角度から検証し、その大切さと普遍的原理を確かめ合い、それを守っていくことが世界平和に通じる道だという認識を持って、今後も障害者・患者9条の会は、着実な運動を進めていくことになるだろうと思います。

